

地域スポーツの指導者育成へ

文科省 12都道府県でモデル事業

文科科学省は、誰もが参加できる生涯スポーツの場として期待されている「地域スポーツクラブ」の設立を進めるため、クラブ運営の中核となる指導者育成に乗り出す。

本年度中に十二の都道府県をモデルに選び、指導者育成のプログラム作りを委託。来年度予算で一カ所当たり五百万円を補助し作成を支援する方針だ。

地域スポーツクラブは学校や公共の運動施設を拠点に、原則として参加者の会費で運営する。文科省は二〇一〇年度までに全市町村に設立する目標を掲げているが、昨年七月時点で設立自治体は、準備中を合

わせても全体の49%。指導者の人材難から設立数が伸び悩んでいるという。

このためプログラムには、スポーツ経験が浅い人でも指導の基礎を身に付け、体操などの軽い運動を教えられるような内

容を盛り込む。高齢化が進む地域では、お年寄り向けの指導メニューを充実させる。

〇八年度中に完成させ、実際に市町村から指導者候補を集めて研修してもらい、成果を踏まえ全国展開する方針。

1 改革に「？」で自民惨敗

社団法人「農業開発研修センター」(京都市南区)は、全国の自治体やJAに実施した2007年の農業、農政10大ニュースのアンケート結果をまとめた。1位は「農政改革の是非が問われた参院選で自民党が惨敗」で、

2 食の偽装相次ぐ

同センターは国の品目横断的経営安定対策に対して「農家が疑問を呈した結果」とみている。全国の899の自治体と405のJA

07年農政10大ニ